

# 2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 27日

所属・職名	商経学部・専任講師	氏名	森 浩気
研究課題	日本の管理会計の変容に関する研究		
研究キーワード	日本の管理会計，組織ライフサイクル，原価計算手法，利益計画策定手法	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>まず，日本企業の管理会計実態に関する大規模調査から，特に非製造業において以前より財務指標を重視する度合いが上昇したことを確認した。その他は過去の調査から顕著な変化は見られなかった項目が多く，インタビュー調査の内容とも一致するものだった。</p> <p>つぎに，組織ライフサイクルとの関係では，組織ライフサイクルステージごとに異なる管理会計の実態が確認された。本研究では，会計研究における組織ライフサイクルモデルの援用に関して，いくつかのステップを踏んで分析を行っている。第一に，管理会計研究においてどの組織ライフサイクルモデルを援用すべきか考察を行い，キャッシュフロー情報をもとにした財務会計研究に適合的な組織ライフサイクルと，業績（売上高）の経時的变化をもとにした管理会計研究に適合的な組織ライフサイクルモデルとを区別した。第二に，既存の研究における組織ライフサイクルステージの分類方法を見直し，本研究における分類方法を再現可能な手続きにもとづいて提示した。この際，前期成長期，前期停滞期，後期成長期，後期停滞期の4つのステージを抽出している。第三に，質問票調査で得られたデータについて一元配置分散分析および多重比較（Tukey法）による分析を行い，組織ライフサイクルステージごとに一定の差異を確認した。たとえば，企業規模を問わず成長期にある企業が直接原価計算を積極的に利用していること，前期停滞期の企業は利益計画策定手法の利用度が比較的低いことが明らかになった。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【発表】</p> <p>「日本における管理会計技法・情報利用の変容に関する研究」（スタディ・グループ中間報告）日本管理会計学会 2019年度年次全国大会，2019年8月29日，専修大学。（代表・吉田栄介氏での共同報告）</p> <p>3. 主な経費</p> <p>上記の統計分析のため，ソフトを購入した。</p> <p>管理会計実務に関する文献調査のため，書籍を購入した。</p> <p>統計分析をフォローアップする企業へのインタビュー調査のため，旅費交通費を支出した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p style="text-align: right;">（本文は1ページ以内にまとめること）</p>			